

小谷小だより

E-mail:kodani-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

第 9 号
令和6年
12月20日

親子マラソン大会 ～ご参加・応援ありがとうございました～

今年には秋がないのかと思わせるような急な冷え込みで、いっきに真冬の到来を感じるこの頃です。



12月7日の土曜日は、たくさんの保護者の方が熱い応援をしてくださり、また、一緒に走ってくださり、子供たちも張り切って走ることができました。大変お世話になりました。

今年度も暑い日が長く続きランニングがあまりできませんでしたが、自身が定めた目標の実現に向け、元気いっぱい力を発揮することができました。

持久走は苦しく、自分自身とのたたかいです。しかし、共に走ってくださる保護者の皆さんや応援をしてくださる保護者の皆さんの温かい励ましをいただいたり、仲間と競い合うことで記録をよくしようとしたりすることで、完走めざして頑張り続けることができました。

子供たちには、このマラソン大会で得た力を日々の学習や生活の中で発揮していてもらいたいと思います。

「おかげ」 ～今一度「おかげ」について考えてみると～

「おかげ」という言葉は、一般的には、他者の助けや支えのおかげで自分があるという感謝の念を表す言葉ですが、これを生き方や教育の文脈で考えると、いくつかの重要な側面が見えてきます。

○ 相互依存の理解

「おかげ」という言葉は、私たちが一人では生きていけないことを教えてくれます。他者との関りがあって初めて自分が成立し、自分の成長にもつながります。教育においても、先生や友人、家族や地域の方たちの支援が不可欠です。このような相互依存の理解は、社会の一員としての責任感を生む基盤となります。

○ 感謝の心を育てる

「おかげ」の意識は、感謝の心を育てる要素でもあります。何かを達成したときに、その背後にある人々や環境に感謝することは、自分の成功を過信せず、謙虚な姿勢をもち続けることにつながります。教育の場においては、子供たちに感謝の重要性を教えることが、彼らの人間性を育む一助となります。

○ 困難を共に乗り越える

人生には困難がつきものですが、「おかげ」の視点をもつことで、他者との支え合いが可能になります。子供たちが協力し合い、助け合うことで、よりよい学びの環境を創り出すことができます。チームワークやコミュニケーション能力の向上にも寄与します。

○ 自己成長と他者の重要性

自己成長を追求する中でも、「おかげ」という考え方は重要です。自分の力だけではなく、周りの人々の影響を受けて成長していることを認識することで、より広い視野をもつことができます。これは、子供たちが、仲間から学び合う姿勢を育てることにつながります。

以上のように、「おかげ」は私たちの生き方や教育において非常に重要な役割を果たしています。他者との関わりを意識し、感謝の気持ちを育て共に成長していく姿勢は、よりよい社会を築くために欠かせない要素です。インターネットの普及等で、人と人との関わりが減ってきているとは言われますが、自分に関わってどんな「おかげ」があるのかゆっくりと考えてみるとよいかもしれません。

今年も残りあとわずかとなりました。たくさんの方々の「おかげ」で、一年を終えられること、保護者・地域の皆様のご支援・ご協力に心から感謝いたします。

校長 山田 隆